

# ニュース・レター NO11

2011年9月号

おやじ日本

## 子どもたちに、現実社会の息吹を

暑かった夏を節電で乗り切った皆さん、ご健勝でご活躍のことと拝察いたします。

3月11日の東日本大地震以来、わが国の今後について考え込まれた方も多いと思います。社会が大きく変わっていること、これまでそんなものだと思い込んでいたことを本当にそれでよいのか考え方直すことが大切だと実感された方も多いでしょう。去る6月5日のおやじ日本全国大会では、親や教師を含めた大人の側が、どう子どもたちに育ってほしいのか、どんな大人になってほしいのか考え方直すことの大切さを浮き彫りにしたと感じています。

これまでのように、よい大学に行き、大企業に勤めるために勉強させるのが子どものためだという考えは、雇用関係の変化やグローバル社会の進展などの社会の変化にそぐわないのではないか

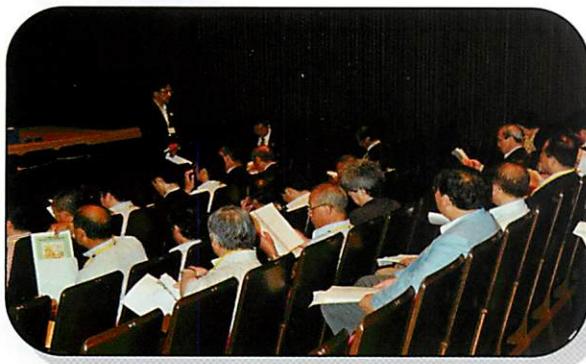
ないか、子どもの好きなように育てるだけでは、子どもたちは現実社会の厳しさに耐えられないのではないかといった問題提起。やはり、子どもたちが職業を含めて将来の目標を持てるように、そして、たとえば、勉強が得意な者はそこを磨き、そうでないと思う者は自分の特技を見出してそれを伸ばす努力をし、その結果、社会で自分の生活を立てられることがまず大事で、それぞれがそれなりに納得し、また、社会のために少しでも役立てるような人生を送ることを目標にがんばってほしい、そして、元気な子どもたちであってほしいという願いが、大会参加者の底流にあることが感じされました。

おやじ日本は、議論ばかりではなく、9月から、学校と企業等との連携による未来教室の取組を開始し、子どもたちに、現実社会の息吹を学校外から送り込むことに協力します。皆さんのご支援をお願いいたします。



NPO法人おやじ日本理事長  
竹花 豊

## 平成23年度通常総会、無事終了



6月5日(日)第9回NPO法人おやじ日本全国大会開催に先立ち、午前11時より、大会会場の渋谷区文化総合センター大和田4階さくらホールにて、平成23年度通常総会が開催され、平成22年度事業報告、収支決算報告、監査報告、平成23年度監事選出などについて審議及び平成23年度事業計画、予算などの報告が行われ、全ての事項が承認されました。

### 平成23年度NPO法人おやじ日本理事・監事

理事長：竹花 豊

副理事長：二村 好彦 伊東 一吉 納富 善朗

常務理事：小山 洋子

理事：浅沼 仁 深野 悅洋 伊沢 公晴 上田 和俊

折笠 廣司 小池 英仁 厚東 克己 柏田 荣文

更江 篤 篠原 豊 森田 孝明 渡部 徹 渡辺 嘉郎

和田 英光

監事：岩崎 智彌 長坂 敏史 (敬称略 五十音順)  
☆正会員名簿(理事・監事除く)はP6に掲載

### 新理事・監事



柏田 荣文新理事



厚東 克己新理事



渡辺 嘉郎新理事



岩崎 智彌新監事

### 審議事項

- 平成22年度事業報告について
- 平成22年度収支決算報告について
- 平成22年度監査報告について
- 平成23年度監事選出について
- 事務所移転に伴う定款変更について
- 理事定数変更に伴う定款変更について

### 報告事項

- 平成23年度事業計画について
- 平成23年度予算について
- 理事及び理事長、副理事長  
及び常務理事の選任について
- 理事の職務分担について
- 退任理事及び監事について
- おやじ日本広島大会について

# 第9回NPO法人おやじ日本全国大会開催！

## 「学校は社会の変化に対応できているか。そして親は…」

### ～おやじ日本の問題提起～

過日6月5日(日)に開催した「第9回NPO法人おやじ日本全国大会」は約550名の方々にご参加頂き、2階席を急遽、開放するほどの盛会となりました。今号では、ご参加頂いた皆様はじめご協力下さった多くの皆様への心からの感謝を込めて、大会の様子を、写真を中心に紹介します。また、当日の様子は、おやじ日本ホームページにて公開中です。(ビデオ上映第1部は除く)是非ご覧下さい。(おやじ日本ホームページ <http://oyaji-nippon.org>)

#### ビデオ上映 第1部 作家の村上龍氏と竹花豊おやじ日本理事長が対談

「かつてのように個人を守るものがことごとく制度疲労しているとき、一番基本は何だろう。

大人になるということは、自分の力で生活していくことなのだ。」

2003年11月に出版され100万部を超えるベストセラーとなった村上氏の著書「13歳のハローワーク」。

対談は著作の動機からスタート。



村上龍氏談(抜粋)

高度成長の時代には、職があり、人手が足りなかった。なるべくいい教育を受けて、なるべくいい学校に行って、なるべくいい会社に入るという強力なロールモデルがあつた。90年代以降、バブルが終わり、企業の体力が落ちて、一括で大量の新入社員を探ることがなくなったり、よりスキルや能力の高い学生を探るようになつたりして、働き口がない。社会構造や産業構造が変化しているにもかかわらず、子どもに求めるのがいい学校、いい大学、いい会社なのです。親、教師、社会側でどういう大人にすればいいのかということが語られていないし、ひょっとしたら考えられていないかもしれない。

かつてのように個人を守るものがことごとく制度疲労しているとき、一番基本は何だろう。大人になるということは、自分の力で生活していくことなのだ。稼ぐためには職業に就かなければいけない。いまは昔と違って職業はたくさんありますよという本をつくろうと思った。

対談記事は、おやじ日本ホームページに、平成23年9月3日から9月18日までアップしています。  
また、巻末(P9～P12)にも記事を掲載していますので、詳細はこちらをご覧ください。



#### ビデオ上映 第2部 おやじ日本会員の言い分

上映後、「おやじの会のイメージが変わった」等、高い評価を頂いた第2部の「おやじ日本会員の言い分」。大学を卒業したばかりの青年から、戦争を体験し、時代の変化を経験してこられた会員まで、実に多様な方々が参加しているおやじ日本ならではのビデオ。学校教育や社会について本気のおやじたちの「言い分」が語られました。



##### 「おやじ日本会員の言い分」一部抜粋

- ・私は、小学校に行って、校長先生と話をした時に、通知表を開いて、「右側が生活態度、左側が国語、算数とありますけれども、まず、私は右側を見ます。国語、算数は良いでなくていいから、生活態度を良いにして来い、と子どもに話しています。」と言つたら「今時珍しいお父さんですね。」と共感されました。
- ・大学で学んだ学問ソーシャルインベーションを活かして何か社会に変化を起こすことをやっていきたいと思った時、僕の学んだ学問に入る範疇の企業はほとんどなく、就職活動はしませんでした。
- ・今までの画一的な单一的なものさしは違つてたんじやないかと、多くの人が気がつき始めているんだけど、今までの惰性があるから、何となくゆっくりしたいんじゃないかなと。半分は分かっているんだけども、半分は今まで自分で持ってきたものでやろうとして、より良いところに行きなさい。そういうものは、あるような気がしますね。
- ・生きる力は好奇心と忍耐力。子どもの頃からいろんな経験を自分たちでして小さな成功を少しづつ積み重ねて、小さな失敗を一杯積み重ねてもらいたい、そういう事を子どもたちにやらせてあげられる大人社会でありたい。失敗はすごく大事。

# 多彩なパネリストが熱いパネルディスカッションを展開！ ～教員を目指す若者から「日本を背負って立つ」宣言が。～



精神科医 岡田 尊司氏

今の子どもたちに接していると、社会的能力がうまく育っていないことを痛感する。子どもたちの個々の特性を生かせるようななかで、自立できるための職業教育を連続的につなげていく仕組みが必要である。



文部科学副大臣 鈴木 寛氏

学校、家庭、地域、おやじの会、企業等が社会の変化に対応する教育環境を整えたいと頑張っている。さらに、うまく連動できるよう、全国に広がりつつあるコミュニティスクールで活躍する父親、おやじたちの活躍に期待したい。



日本航空株式会社 柿沼 智洋氏  
CSR活動の一環として学校への出前授業等を行ってきた。その中で学校の勉強がどのように社会で役に立つか教えていくことは有意義だと実感している。現状では、先生方との連携のあり方が課題と感じている。



コーディネータは

NHK解説委員 早川 信夫氏

東日本大震災が今の学校や教育のあり方に一石を投じていると問題提起され、熱いパネルディスカッションをソフトにリードし、盛り沢山の議論を見事にまとめて下さいました。



NPO 法人おやじ日本理事長

竹花 豊

社会の変化に対応した教育のあり方を、まず大人達が感じ取り、子ども達に伝えていくことが大切。身近にいるたくさんの大人達が子どもたちと積極的に関わっていくためには、学校という場が重要な舞台となる。学校にはもっと頑張ってほしいとエールを。



会場からの意見に耳を↑→  
傾けるパネリストの皆さん



東京学芸大学教職大学院生

富士本 陽平氏

就職活動で、学校で学んできた勉強が社会でどのようにつながっていくのか疑問に思ったことや、知識だけでなく、コミュニケーションスキル等の習得の大切さについて考えさせられた。教育環境の現状に問題意識を持つことが大切である。



東京都中学校長会長 三町 章氏

学校は社会の変化に対応するべく変わっていかなければならない。そのためには、来年度から始まる新教育課程の中で地域、企業等の外部の方々の力をどのように活かしていくかを確実に検討していきたい。



東京学芸大学教職大学院生

柳 桂子氏

今の中学校では、学力のみが重視されているが、社会に出る時にはソーシャルスキルなどの要素も重視されるように思う。学科以外のところも評価する教員を目指したい。

## 大会当日の様子



会場入口にて「おやじ日本」横断幕を持つて



受付準備をする  
スタッフ



← →  
開場とともに  
たくさんの方々  
が入場されました。



↑熱気に包まれた、満員の会場。



↑開演前控室にて、コーディネーターの早川氏を中心にパネリストの皆さまが打ち合わせ中。

← 次々と手が上がり、質問、意見が飛び出しました。



↑渋谷区長 桑原敏武氏  
ご多忙の中、会場に駆けつけ  
て下さり、ご挨拶を賜りました。



↑第2回おやじ日本広島大会は広島市  
内にて開催。おやじ日本広島から参  
加の折笠廣司理事より挨拶。



↑スクリーン上映について事前打ち合わせをする、  
細貝氏(パナソニックシステムソリューションズジャパン(株))、竹花理事長、秋山氏(パナソニック映像(株))



↑NPO 法人おやじ日本正会員紹介(名簿は P6に掲載)

是非ご参加下さい!

第10回 NPO 法人おやじ日本全国大会

日時:平成24年6月24日(日)午後1時30分~

場所:渋谷区内



## ご賛助を賜りありがとうございます！

青木 裕・山本 容子 (財)アジア刑政財団 (株)AYA交通 あゆの風法律事務所 飯田 五郎 一越観光(株)  
(株)オオコシセキュリティコンサツタンツ 開進交通(株) (有)カーサ・テラー 鍵山秀三郎 カンツリー交通 (株)  
木藤 繁夫 キャピタルモータース(株) キューピー(株) 五反田すしやの馬太郎 (株)さわやか 三幸交通(株)  
JYSジャパン(株) 昭栄自動車(株) 省東自動車(株) (社)スコーレ家庭教育振興協会 ストップ・ガン・キャラバン隊  
すばる交通(株) 全国読売防犯協力会 大栄交通(株) 太陽自動車(株) 大洋自動車交通(株) 高砂自動車(株)  
つくば観光交通(株) つばめ交通(有) (株)テレビ東京ミュージック 東亜交通(株) 東海神栄電子工業(株)  
東京交通興業(株) (株)東京交通新聞社 東京コンドルタクシー(株) 東京都個人タクシー協同組合  
東京都個人タクシー交通共済協同組合 長谷優磁 日興自動車(株) 日興自動車交通(株)  
日個連板橋支部 日個連城北支部 日個連東京都交通共済協同組合  
日個連東京都営業協同組合 西会計事務所 (株)交通総合センター  
日日交通(株) (社)日本フランチャイズチェーン協会 根本特殊化学(株)  
春駒交通(株) 日吉交通(株) 日立自動車交通(株)  
パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株) ビッグホリデー(株)  
(株)ビルテック 広島中央ロータリークラブ 不二交通(株) 富士自動車(株)  
(株)ベーシック 保険情報サービス(株) マコト交通(株) (株)マレイ物産 右田・深澤法律事務所 弁護士深澤直之  
(株)宮本企画 代表取締役宮本照夫 山田尾崎法律事務所 (株)読売新聞社 (株)リード 龍生自動車(株)  
(株)ローソン (敬称略 五十音順)

ラムに掲載  
大会ブログ



## 正会員名簿(平成23年8月10日現在 理事・監事除く)

青木かの 赤枝恒雄 赤沼雅彦 阿部敏彦 阿部桃子 阿部豊 池内ひろ美 石井美知夫 石川きよ子 石川礼子  
石田詔夫 石原正康 石橋昌祐 磯野信男 伊地知伸久 市村智 伊藤雄二郎 上田準二 宇都宮啓 内海正憲  
梅田信利 大久保将 大和田尚子 尾形和男 奥谷泰史 長村和典 小田啓二 小野真 片山潮 加藤多津生  
加藤浩康 菊池順子 北貞丈 北川邦弘 北住章 工藤あや子 栗田勤 黒沼範子 小池幸子 櫻井邦彦 櫻田厚  
澤柳雪恵 島崎健二 清水武治 砂田龍吾 関銀行雄 関谷晴子 高島信義 高林典郎 竹内光弘 竹内ゆき  
田中清隆 田中壮一郎 田中利裕 田中秀樹 田辺尋子 谷口雅典 塚田茂晴 塚本勲 辻本篤郎 坪田知広  
寺澤恵太郎 徳納孝昭 富田浩志 中井滋 中務正裕 中原好治 中山美子 西野和広 西村堯 布村幸彦  
野田勝憲 野田和喜子 萩原太郎 橋本壽夫 橋本英樹 橋本満 馬場成一 馬場久和 濱島健祐 原田隆史  
平間研司 福井昂 藤井武志 藤田三枝 星野睦郎 堀川寛 本田郁雄 前田慎吾 前田充紀 前田義昭  
松岡裕子 松田亨 松田匡史 松土直 三浦隆子 三宅年行 宮本秀樹 森上展安 山口敏 山下哲夫 山根健司  
山根直樹 山本正士 横山佳夫 若林悦子 脇山幸之 渡辺英治 渡辺和子 渡辺靖子 渡井勝成

\*理事・監事名はP1に掲載 敬称略五十音順

## 第2回おやじ日本広島大会お知らせ

### 1 第2回おやじ日本広島大会 ~おやじの出番じゃろうが~

日時:平成 23 年10月29日(土) 午後2時~

場所:広島市西区民文化センター (JR横川駅南口より徒歩3分)

・基調講演 「一つ拾えば、一つだけきれいになる」(仮)

講師 日本を美しくする会相談役 鍵山秀三郎氏



基調講演講師  
鍵山秀三郎氏

・対談 「広島暴走族問題に立ちあがったおやじたち」

鍵山秀三郎氏&おやじ日本理事長 竹花豊

・パネルディスカッション「広島の子どもたちがすくすく育つ環境作り」

パネリスト:平田克明氏 (県教育委員長)

山下哲夫氏 (元広島県弁護士会会长) ほか調整中

特別パネリスト:鍵山秀三郎氏・竹花豊

コーディネーター:堀川寛氏(三滝グリーンチャペル牧師・  
広島市スクールカウンセラー)

主催:おやじ日本広島  
堀川寛会長 竹内光弘事務局長



### 2 おやじの森仕事

~平田農園をお借りして里山の手入れ作業を体験 子どもの将来を考えつつ日本の森林を再生して行こう~

日時:平成23年10月30日(日) 午前10時~午後3時

場所:(有)平田観光農園所有の森 (三次市上田町 1740-3 Tel 0824-69-2349) \*お子様連れ大歓迎

## 「正会員交流会に参加して」

正会員 宇都宮啓



平成23年7月23日(土)渋谷東武ホテルの中国料理店「竹園」において、正会員交流会が開催されました。

今回はこれまでと異なり、座席はくじ引きによる指定制で、1番から5番までのテーブルに、それぞれ8席ずつ用意されていました。小生は5番テーブルの3で、座ってみると、隣は小山常務理事の席でした。まだ開会の30分ほど前だったので、着席している方は1番テーブルの竹花理事長など数名でした。その後、徐々に座席が埋まり始めましたが、なぜか5番だけは誰も来ません。自分



→ 竹花理事長による乾杯の発声で →

としてはよくかき混ぜてくじを引いたつもりだったのですが、ひょっとしてこれは小山常務の術中にはまってしまったのではないかと胸騒ぎがしたその時です。「宇都宮さん、ごめんなさい。司会の予定だったTさんが用事で遅れるので、あなたに司会をやって欲しいの。段取りはここに書いてあるから。」とその小山常務の声がして議事次第を渡されてしまい、急遽、にわか司会による開会となりました。

まず竹花理事長のご挨拶です。理事長はまず6月5日のおやじ日本全国大会の成功のご報告をされ、そして全国大会の様子をおやじ日本のホームページで公表したいと述べられました。また、今後のおやじ日本の事業として、「未来教室」を実施すると表明され

ました。「未来教室」は、社会力スキルアップ次世代支援事業として、学校と企業等を結びつける桟の役割を担う事業です。早速今年の9月17日には、目黒区立東山中学校で事業を行うとのことでした。

続いて伊東副理事長の発声により乾杯。しばしの歓談中によくT氏が現れ、司会をバトンタッチすることができました。

その後、各会員の自己紹介と近況報告となりましたが、皆様熱心な活動をされており、なかなか話が收まらず、あつという間に3時間が過ぎ、閉会となりました。できればもう少しゆっくりといろいろな方とお話ができるればと思いつつ、帰路につきました。

なお、5番テーブルですが、途中で席替えとなり、無事に多くの皆さんとお話をできたことをご報告します。

末筆となりますが、竹花理事長、小山常務はじめ、交流会の企画、準備をして頂いた方々に、心より御礼を申し上げます。



活動の近況を熱く語られる、二村副理事長はじめ正会員の皆さん

← ↓ →



和やかにお話が弾み…。  
白熱した議論になるところも？



↑最後に一本締めの発声をして下さった橋本壽夫正会員

## 今後の活動予定

詳細は事務局までご連絡下さい。

平成23年9月17日(土) 学校と企業連携支援 於目黒区立東山中学校

平成23年10月29(土)午後2時～ 第2回おやじ日本広島大会 於広島市西区民文化センター

30(日)午前10時～ 森仕事 於(有)平田観光農園所有の森(三次市内) (詳細はP6)

平成23年11月5日(土)、6日(日) 渋谷区くみんの広場 於代々木公園

平成23年11月19日(土) iS 運動研修

平成24年1月6日(金) 午後6時～ 新年互礼会(正会員交流会) 於おやじ日本事務所

平成24年6月24日(日) 午後1時30分～ 平成24年度第10回全国大会 於渋谷区内

平成24年7月21日(土) 午後5時30分～ 正会員交流会 於渋谷東武ホテル地下1階「竹園」

## ◇◆ 活動報告 ◆◇

平成 22 年度

☆第 4 回定例理事会 4 月 2 日 (土)

(東日本大震災の影響により 3 月 25 日開催日程を変更)

審議事項

平成 23 年度事業計画について

平成 23 年度事業予算について

報告事項

「おやじ日本のこれから」検討会について

第 9 回全国大会について

iS 運動フォーラムについて

83 運動について

学校と企業との連携システム支援推進について

第 2 回おやじ日本広島大会について

その他

☆運営委員会

1 月度運営委員会 1 月 29 日 (土)

「おやじ日本のこれから」iS 運動 83 運動

ネットワーク推進 大会事業等 財政

学校と企業の連携 ホームページ 運営 事務局体制

収入概要 全国おやじサミット

倉敷市立大高小学校 83 運動 他

2 月度運営委員会 2 月 27 日 (日)

「おやじ日本のこれから」iS 運動 83 運動

ネットワーク推進 大会事業等

学校と企業との連携システム支援

平成 23 年度事業計画策定

平成 23 年度事業予算策定 第 9 回全国大会 他

3 月度運営委員会 4 月 2 (土)

(東日本大震災の影響により 3 月 25 日開催日程を変更)

平成 23 年度事業計画 平成 23 年度事業予算

「おやじ日本のこれから」検討会報告

第 9 回全国大会 iS 運動 83 運動

学校と企業との連携システム支援推進

第 2 回おやじ日本広島大会

第 9 回全国大会実行委員会開催 他



↑おやじ日本新事務所  
日当たりが良く、明るい部屋

### 事務局からのお知らせ

☆おやじ日本では、引き続き、正会員・登録会員・賛助会員を募集中です。

☆おやじ日本事務所が下記に移転しました。是非お立ち寄り下さい！

### 【発行】特定非営利活動法人おやじ日本

住所 〒150-0042 渋谷区宇田川町5番2号 渋谷区役所神南分庁舎3階

電話&ファクス 03-3462-7113

ホームページ <http://oyaji-nippon.org/>

事務局担当理事 小山 洋子 desk@oyaji-nippon.org

編集担当 丸山 容子

ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます

平成 23 年度

☆第 1 回定例理事会 5 月 8 日 (日)

審議事項

平成 22 年度事業報告について

平成 22 年度決算報告について

理事の選任について

理事長、副理事長及び常務理事の選任について

理事の職務分担について

平成 23 年度監事候補について

事務所移転について

事務所移転に伴う定款変更について

総会議案について その他

報告事項

平成 23 年度正会員名簿について

第 9 回全国大会について

学校と企業の連携支援事業について

事務局職員について その他

☆運営委員会

5 月度運営委員会 5 月 8 日 (土)

第 1 回定例理事会報告 第 9 回全国大会

学校と企業との連携システム支援推進事業 総会

各地のおやじの会 他

6 月度運営委員会 6 月 28 日 (火)

第 9 回全国大会 第 9 回全国大会決算報告

第 9 回全国大会交流会決算報告 第 10 回全国大会

平成 23 年度事業 学校と企業との連携システム支援推進

iS 運動フォーラム 83 運動情報交換会

ネットワーク拡大 ニュースレター発行

東京都法務局関係事務手続き

パナソニック NPO サポートファンド

第 2 回おやじ日本広島大会 各地のおやじの会 他

☆第 9 回全国大会実行委員会及び報告会

第 1 回実行委員会 4 月 2 日 (土)

企画 予算 実行委員名簿 プログラム 動員要請 他

第 2 回実行委員会 5 月 8 日 (土)

大会チラシ 役割分担 プログラム 動員要請

会場下見 交流会 他

第 3 回実行委員会 5 月 23 日 (月)

プログラム スケジュール及び役割分担

メッセージ依頼 参加要請 交流会 他

第 9 回全国大会報告会 6 月 28 日 (火)

感想反省 決算報告 交流会会計報告

←おやじ日本事務所が入っている渋谷区役所神南分庁舎。屋上は、緑化のモデル事業として見学者も多く、素晴らしい眺めとなっています。



# 大人になる子どもたちに

対談

村上 龍氏（作家）

竹花 豊（NPO 法人おやじ日本理事長）

第9回 NPO 法人おやじ日本全国大会 ビデオ上映 第2部

特別協力

（株）幻冬舎 石原正康

京須和恵

パナソニック映像（株）

パナソニック システムソリューションズ ジャパン（株）

「13歳のハローワーク公式サイト」

竹花 よろしくお願ひいたします。私は東京都で青少年問題を担当しておりますときに『13歳のハローワーク』が出ました。2003年11月のことでした。どう生きるか、それは難しい問題だけれども、シンプルな事実があって、子どもは必ず大人になって、その生きる糧を得るために働くなければいけない、そのために準備をしていくのだということをお書きになったところに、僕はいたく感銘を受けました。こういう本を当時お書きになった背景、あるいは動機をまずお伺いできませんか。

村上 動機は、ちょうどその1~2年前ですが、NHKで教育の特集があって、総合で2時間とか、そのあと教育テレビで6~7時間の番組でした。保護者の方たち、教師の方、識者と呼ばれる教育評論家、あるいは文科省の人がゲストでした。僕はメインゲストということで、司会者の横でした。

お母さん方など保護者の方は学校に対するリクエストを言うわけです。自分の子はいじめられていますとか、もっとこうしてほしいとか、その当時ゆとり教育でしたが、それはよくないのではないかとか、学校の先生たちは、家庭でこういうことをやってほしいとか、最低限のしつけはしてほしいとか言うわけです。

5時間ぐらい経ってしまって、もう埒が明かないと思ったので、保護者の方たちに、「皆さんは自分のお子さんにどういう大人になってほしいのですか」、また教師には、「どういう生徒であればいいのですか」と聞きました。そうすると答えられないのです。子どもに対するリクエストですが、「いや、それはともかくいじめだ」とかという話になって、全然話が進まない。

いったいどうなっているのだろうと思ったときに、日本の教育界だけではなくて、社会全体が子どもをどう育てればいいのかということを見失っているのではないか。それはなぜ見失ったかというと、主に高度成長の時代ですが、非常に強いロールモデルがあったのです。それは高度成長ですから、需要が非常に多くて、生産はどんどん拡大していきますから、職はあるのです。ですから職はある、人手が足りないというときに、なるべくいい教育を受けて、なるべくいい学校に行って、なるべくいい会社に入るという強力なロールモデルがあったのです。

90年代以降、バブルが終わってからそれがどうなったかというと、企業の体力が落ちて、一括で大量の新入社員を探ることがまずなくなったり、よりスキルや能力の高い学生を探るようになり、僕は九州の佐世保というまちですが、僕が育ったころは造船業が非常にさかんで、工業高校に行った子は基本的にその造船所に入る。

造船は、最近ではまた盛り返しているようですが、造船不況があると、僕の故郷の佐世保では工業高校を出ても働き口がないのです。そういう社会構造や産業構造が変化しているにもかかわらず、子どもに求めるのがいい学校、いい大学、いい会社なのです。しかも会社に入つても、昔ほどの社員教育がなされない。体力がないので研修も減っていますし、そもそも採用も減っています。

そうなってくると、親の側、教師の側、あるいは社会の側でどういう大人にすればいいのか、そのために子どもにどういう教育をすればいいのかということが語られていないし、ひょっとしたら考えられないかもしれない。

一つ大きなことは、学校単位、あるいは企業単位で子どもの面倒を見たり、あるいは企業が福利厚生があったり、家計を守ったりするわけです。その企業を銀行が保護して、銀行を官僚が保護するという護送船団があったのですが、それがどんどん崩れていくと、それまで家庭、学校、企業、あるいはもっと大きな社会に守られていた個人が、あぶり出されるように露出する。

露出した個人に、周囲のアナウンスマントは勉強しなさいだったり、いい学校に行きなさいだったり、それは間違いではないのですが、勉強していい学校に行ったら、もう安心ではない。大きな会社に入っても早期退職だったり、個人が露出してしまった社会で、その個人をプロテクトするものがことごとく制度疲労しているというときに、一番基本は何だろう。

大人になるということは、自分の力で生活していくことなのだ。そのためにはインカム、収入が要るし、それを稼ぐためには職業に就かなければいけない。そうだったら、いまは昔と違って職業はたくさんありますよという本をつくろうと思った。それが動機です。

竹花 この本は子どもたちに伝わりましたか。

村上 これが100万部も売れたということは、何となく世の中が変化して、昔の高度成長のころのロールモデルはもう通用しないと思っている保護者の方、あるいは中学、高校以上の子どもさんが僕の予想以上に多かったということだと思います。

竹花 学校や企業の子どもの職業意識について。

村上 この時代の特徴ではあるのですが、まだら模様と言うのでしょうか、本当に少ない学校、全国でも点々とあるような、全体で5%、10%かもしれません、あるいは保護者の方も企業の方も、いまの時代をしっかりと把握して変化に対応しようとしている人たちはいると思います。大ざっぱに言って、全国的には適応できていないと思いますが、努力している人たちはいっぱいいると思います。

竹花 教育・社会のシステムが現状に対応できていない点。

村上 一番わかりやすいのが、学生の就職というシステムです。大学3年生くらいから就職活動を始めて、勉強する時間がない。いまだにみんな大企業に入ろうと思っています。でも大企業は昔ほど新卒を採用しない。入ってからの研修もあまりないように、学生は就職活動だけする。それを大学の就職課も社会も、あるいは文科省もどうすることもできないのです。たとえば大学時代に一定期間、インターンをするということを法律で決めるとか、システムが遅れている例はたくさんありますが、就職はその最たるものではないでしょうか。

竹花 いまの若者たちの環境について。

村上 僕らが子どものころは、冬は寒く、夏は暑く、夏休みが終わると日本脳炎で2~3人死亡していました。ただ、いまの時代にはない何があったかというと、とにかくどこかに勤めれば給料は上がっていった。解雇される心配もほぼなかった。

僕は雇用が守られているということが一つの安心で、給料が上がっていいくというのが一つの希望だと思うのです。給料が上がっていから、ここはこれを我慢して、たとえば車を買おうとか、マンションの頭金をためようとか思うわけです。切実な話ですが、いま給料はまったく上がっていない。昔は相対的に貧しかったのですが、給料が上がっていいくということはいまよりも将来のほうがよくなると思えるのです。いまはそういうふうに思うのは難しいと思います。だからそれが一番の違いだと思います。

竹花 職業に生きがいや充実感を持てない現状について。

村上 個人が露出した時代なので、全体が変わるというのは、そもそも高度成長のころの考え方です。いまは個人が露出した時代なので、一人ひとりが変わっていく、あるいは変化に適応していくしかないのです。行政とか教育機関、あるいは政府に対していろいろリクエストをしたり批判したりするのは大事です。ただ、彼らが法律を変えて予算をつけるのに10年かかる、12歳の人は22歳になってしまう。期待して何もしないというのは、リスクが大きすぎるわけです。だから行政や政府に強くリクエストするのも大事です。ただそれとは別個に、

あまりいい言葉ではないのですが、自分の子どもや自分が有利に生きられるかということを一人ひとりが考えないといけない。

竹花 学校に変わってほしいところについて。

村上 学校を変えるのは大変です。それより個人の生き方を変えたほうが早いことは早い。先ほども言ったようにリクエストはするべきです。でも明日からできることをやらないといけない。

竹花 保護者から子どもたちへのアドバイスについて。

村上 一人ひとり違うので言えない。だからそれぞれのお父さん、お母さんが考えないといけない。みんな一律ではなくて、その人の経済力、どこに住んでいるか、首都圏なのか地方なのかによって違いますから、一つのアドバイス、答えはありません。保護者の側もばらつきがあって、数パーセントの高学歴、高収入の層と、膨大なグレーゾーンの層と、生活環境もよくないし教育にも関心がないという層の人たちもいるわけです。それも一緒に語ったら答えは出ない。どういう人たちに向かってアドバイスするかでまた変わってしまう。こうなつてほしいという具体的なイメージを持っている大人はすごく少ないと思います。簡単には持てない。大人が、自分がどう生きるかという問題ともかかわってくるわけだから、たとえば大人が自分はどう生きたいのかとわからない人が、子どもにどう生きてほしいとわかるわけがない。

竹花 学校の先生について。

村上 学校の先生もいろいろで、僕は努力している先生もいっぱいいらっしゃると思います。だから教師たち全体に向かって言う言葉というのはなかなかない。もっとしっかりとしてと言っても伝わらない。

竹花 子どもたちへのアドバイスについて。

村上 自分で考えるためには、アドバイスをしないほうがいいこともある。僕は、日本人々は非常に優秀だと思っているので、これまでトッピングで、こうしなさいということをやってきた。だから自分で考える癖がついてこなかった。これからは自分で考えなくてはいけないという一言だけ言って、ある距離を取る。そうしないと自分で考える癖がつかないと思います。みんな指示を待っている。指示はないということをまず言わないといけない。

竹花 今回、先生はまた新しく『新・13歳のハローワーク』と『13歳の進路』を出されました。前の本と新しい本とでは、時代の変化を受けて、メッセージとして何か変わったことはございますか。

村上 時代は良くはなっていないですね。単純に職業が増えたり、あるいは進路ということをちょっと考えてみたいなと思って新しくつくったのですが。

竹花 子どもたちの好奇心について。

村上 好奇心は、みんな持っています。好奇心がない子どもは一人もいない。だから寄ってたかって、その芽を摘むからなくなってしまう。「お父さん、僕これをやりたいんだけど」「ばか、そんなことはどんなに難しいか知ってるのか」と言って摘んでいく。だからみんな持っているんです。

竹花 親は勉強しろとか、いい学校に行けとか言いますが。

村上 たまには言ってもいいんです。それは勉強したほうがいいので。

竹花 子どもたちのコミュニケーション能力について。

村上 大人もコミュニケーション能力はないです。だからいまの子どもにはコミュニケーション能力がないとか言うのは、すごく傲慢な言い方で、コミュニケーション能力に満ちた社会で育つ子どもは、絶対コミュニケーション能力があるのです。